

往復書簡(前編)

北海道で牧場経営等をされている延與雄一郎さん(株式会社ノベルズ 代表取締役)に、ノベルズグループが取り組んでいる家畜糞尿の有効活用、地域の経済や農業への関わりについてお話をいただきました。

拝啓 高木 勇樹 様

初冬の候、ますますご清栄の事とお慶び申し上げます。ここ北海道の十勝平野では、日毎に冷え込みも厳しさも増し、厳冬の訪れを感じさせるこの頃でございます。

私たちノベルズグループは、この十勝を拠点に肉牛生産や搾乳、食品加工の事業を展開していますが、思いがけず、このような機会を頂戴しましたことに御礼申し上げます。

今年の北海道経済は、相次ぐ台風の上陸、接近によって、道路や河川のインフラ、そして農林水産業は大きな痛手をこうむり、私たちも、圃場や施設の浸水に見舞われました。地域の皆様のご支援、ご理解も得て、ようやく現場は落ち着きを取り戻しつつありますが、台風被害を契機に、「持続可能な農業」という理想、また地域社会との関わりについて、あらためて考えさせられました。

いま、私たちグループに籍を置く役員や従業員は、およそ240人。肉牛や搾乳牛は1万9千頭以上を飼養していますが、グループの事業は、農業資材、飼糧、行政機関、農協、大学研究機関、農業ヘルパー・コントラクター組織といった地域の方々に支えられ、初めて今日の姿があります。これから地域の経済や農業に、どのような貢献ができるか、プロジェクトを立ち上げ、その取り組みを本格化させていた矢先でもありました。

ノベルズグループでは、畜産事業者にとって経営上の大命題である家畜糞尿の有効活用に向けて、昨年、新たにグループ会社として株式会社御影バイオエナジーを設立し、現在、家畜糞尿の処理プラントの建設を十勝管内清水町で進めています。1,300頭の搾乳牛を飼養するグループの酪農牧場などから受け入れた糞尿を分解発酵させ、生成されるメタンガスで出力750キロワットの発電を行い、その副産物として、消化液と呼ばれる有機の液状肥料を生産します。

バイオガスプラントの運営は、道内でも先行事例がありますが、このプラントを仲立ちに、農業者との協調を通じて、新しい牧場のスタ

イルを模索するのが、私たちの地域貢献のプロジェクトです。広大で肥沃な農地に恵まれた十勝平野は、小麦、馬鈴薯、ビートに代表される畑作産品の一大生産地であり、その高度な農業技術と生産性は国内でも高く評価されています。とはいえ、より一層の生産性向上と高付加価値化は、この十勝においても大きなテーマです。

一方で、良質な飼料の確保は、牧場の生命線です。特に、十勝平野で生産されるデントコーンは、酪農の生産性向上には不可欠ですが、限られた自社耕作地では生産が追いつきません。有機肥料の消化液を地域の畑作農家に活用いただき、収穫されたデントコーンを提供いただく地産地消が成立すれば、耕畜連携の好循環につながるの期待があります。

農のあり方が問われているいま、十勝も、その例外ではられないのではないのでしょうか。バイオガスプラントは来年稼働予定ですが、地域の農業に対する貢献を通じて、地域に根ざした耕畜連携のあり方を考え、「持続可能な農業」を実践できればと考えております。容易に答えの見つからない時代であればこそ、挑戦は重要です。是非とも、ご意見いただけますようお願い申し上げます。

日毎に寒さがつのり、体調を崩しやすい時期でもございます。どうぞ、くれぐれもご自愛ください。

平成28年11月吉日

敬具

延與雄一郎(えんよ ゆういちろう)

1978年 北海道土幌町生まれ  
2006年 株式会社ノベルズを創業

株式会社ノベルズ 代表取締役。高校を卒業後、米国の肉牛牧場で1年間の研修を経験。ノベルズグループの主要8社は、肉用牛の素牛、肥育牛、生乳の生産牧場の経営のほか、交雑種雌牛の自社ブランド「十勝ハーブ牛」を扱う食品事業を展開。

